

平成 24 年 10 月公立大学法人県立広島大学

グローバル化の進展とそれを背景とする知識基盤社会への転換、本格的な少子高齢・人口減少社会への移行など、我が国の経済・社会を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、将来を見通すことが困難な時代となっています。このような時代にあって、地域や社会が大学に期待する役割は、大きく変わりつつあります。

この将来構想は、概ね 10 年後を展望して、「地域に根ざした県民から信頼される大学」という県立広島大学の使命を果たしていくため、どのような大学を目指していくのか、また、その実現に向けてどう取り組んでいくのかをとりまとめたものです。

## 1 着目する環境変化

本学の将来を考えるに当たり、次の 4 つの「環境変化」に特に着目する。

### (1) グローバル化の進展

- 高度情報化を背景に、人やモノ、技術、情報、資本が国境を越えて地球規模で自由に飛び交い、時間や距離の隔たりがなくなり、企業や地域の相互依存が深化する経済のグローバル化が一層進展する。
- グローバル化を背景に、世界経済が拡大し、地球環境問題や食糧・資源問題が深刻化している。
- 個人や企業、地域が直接、地球規模で自由に活動できるようになった一方で、社会や経済の二極化が進展し、個人や企業、地域間の格差が拡大しつつある。

### (2) 知識基盤社会への転換と価値観の多様化

- 資本や資源、労働が価値を生む「工業社会」から、知識や知恵、情報が価値を生む「知識基盤社会」への転換が一層進展し、労働市場や産業・就業構造の流動化が加速している。
- 人々の価値観が多様化しつつあり、それに対応した生涯を通じた学びの場の整備が求められている。

### (3) 少子化・高齢化の進展と人口減少社会への本格的転換

- 少子化・高齢化が継続し、本格的な人口減少社会に突入しつつある。
- 18 歳人口の減少などを背景に、我が国の大学は、入学希望者総数が入学定員総数を下回る「大学全入時代」を迎えている。現在 120 万人程度で推移している 18 歳人口は、概ね 10 年後から急激に減少する。
- 人口構成は逆ピラミッド型になり、労働人口が減少していく。
- 地域経済の低迷が続き、国・地方財政、家計の逼迫が一層深刻化している。
- 人口偏在による社会的課題が顕在化するとともに、安全・安心への懸念が高まっている。

### (4) 地域の自立・再生への要請

- 人口減少などを背景に、中山間地域を中心に地域社会の崩壊が懸念される状況にあり、地域の特性（自然、文化）を生かした産業構造の構築などにより、地域が自立・再生していく「地域自立社会」への転換が求められている。
- 地域の問題は地域が主体的に取り組むことのできる地域主権型の社会システムに転換するこ

とが求められており、それを可能とする仕組みの導入や自治体の再編成が求められている。

- 東日本大震災の発生を一つの契機に、絆やコミュニティの重要性に関する認識が高まっている。

## 2 重視する視点

「着目する環境変化」を踏まえ、次の4つの「視点」を重視して、大学を運営する。

### (1) 国際・地域 ～グローカリティ

- 地域に軸足を置きながら、世界を視野に教育・研究を推進する。

### (2) 多様・融合 ～イノベーション

- 「知」の源泉は「多様さ」にあり、異なるものを理解し融合させることによるイノベーションが新たな「知」「価値」を生むとの基本認識に立って、研究・地域貢献を推進する。

### (3) 連携・共有 ～ネットワーク

- 小さな「力」が繋がり、協働することにより、大きな「力」を発揮できるという基本認識に立って、教育・研究を推進する。

### (4) 自立・持続 ～サステナビリティ

- 持続可能な地域社会の構築に向けて、地域とともに考え、地域と協働して取り組む研究・地域貢献を推進する。

## 3 目指す姿

4つの「環境変化」と4つの「視点」を踏まえて、県立広島大学は、「人材育成を主軸に、地域・社会のイノベーションに貢献する『知の創造拠点』」を目指す。

### (1) 地域に軸足を置き、世界を視野に活躍できる人材の「育成拠点」

#### 1) これからの時代を生き抜く基礎力を身につけた社会人の育成

- グローカル社会に生きる社会人としての教養と資質を備え、夢と使命感、豊かな感性を持ち、自発的に学び、自らのキャリアを主体的に選択し切り開くことができる人材を育成する。
- 地域に誇りを持ち、心身ともに健康で社会の担い手となる人材を育成する。

#### 2) 地域・産業を支える質の高い専門能力を有する職業人の育成

- 知識基盤社会、地域自立社会に生きる職業人としての専門知識と資質を備え、地域社会や産業界の期待に応える人材を育成する。
- 産業や社会の変化に対応して、新たな専門知識・能力を修得できる資質を有する人材を育成する。

#### 3) 地域・社会の発展を先導するリーダー人材の養成

- 高度な専門技術・技能を備え、組織や業務をマネジメントする力を十分に有する人材を養成する。

### (2) 高度な教育を支え、地域・社会の持続的発展に寄与する「研究拠点」

#### 1) 地域産業の活性化・技術革新に寄与する研究の推進

<主たる重点分野> 食品, バイオ, 環境, 情報システム

- 2) 地域文化の再発見, 地域の再生・発展に寄与する研究の推進  
     <主たる重点分野> 地域文化, 地域再生, 絆・コミュニティ
- 3) 人々の幸せな生活に寄与する研究の推進  
     <主たる重点分野> 多文化共生, 安全・安心, 健康, 保健, 福祉

(3) 大学と地域が持つ資源を結び・生かす「連携拠点」

- 1) 大学連携の推進役
  - 県内大学の連携の推進役を務め, 広島県への人材の集積・定着に貢献していく。
- 2) 地域連携・産学連携の推進
  - 大学の資源を地域へ提供するとともに, 地域資源の活用にご貢献していく。
- 3) 質の高い生涯を通じた学びの場の提供
  - 県民の知的探究心に応える, 高度な学びの場を提供していく。

4 重点戦略

4つの「視点」を踏まえた, 次の2つの「戦略」に重点的に取り組むことにより, 県立広島大学が目指す「人材育成を主軸に, 地域・社会のイノベーションに貢献する『知の創造拠点』」の実現を図る。

4-1 ダイバーシティ（多様化）戦略 ～「国際・地域」&「多様・融合」の視点

国や地域の内外から集う多様な老若男女が, 互いの違いを認め合い, 互いに触発しながら学び, 多様な知を創造していく「ダイバーシティ（多様化）戦略」に取り組む。

(1) 教育システムの再編

- 1) 人材育成目標に基づく体系的な学位プログラムの確立
  - ① 地域や社会の要請, 学生の視点を踏まえた「人材育成目標」の明確化
  - ② 人材育成目標を達成するための「3方針」の明確化
    - ・学位授与方針（DP）
    - ・入学者受入方針（AP） ～高大連携の強化, 入学者選抜の多様化, 入学前教育の充実
    - ・教育課程編成方針（CP） ～学士課程教育の質的転換・体系化, 単位制度の実質化, 成績評価の厳格化
- 2) CPに基づく多様な学修ニーズに対応した教育プログラムの再構築
  - ① 共通教育プログラムの充実
  - ② 入学後に専門教育プログラムを選択できる仕組みの一部学部への導入
  - ③ 多様な大学院教育プログラムの導入 ～社会人教育, リーダー人材教育の充実
- 3) 教育プログラムの再構築に対応した教育組織の再編成
  - ① 共通教育担当組織の再編・強化
  - ② 学部・学科の再編 ～学群制など新たな教育システムの導入
  - ③ 大学院の再編
- 4) 教育に情熱をもち, 教育力と研究力に優れた教員の確保とFD活動の推進

(2) 国際交流の推進

- 1) 日本人学生の海外留学, 海外インターンシップの促進
- 2) 外国人留学生の受入れの推進

3) 日本人学生と外国人留学生が相互に触れあう場・機会の充実

(3) 生涯を通じた学びの場の提供

- 1) 社会人の受入れの拡大
- 2) 高度な学びの場の提供

(4) 地域に根ざした高度な研究の推進

- 1) 学部・学科・専攻の枠を越えた、学内共同プロジェクト研究の推進
- 2) 地域や学外諸機関との積極的な研究協力
- 3) 外部資金の獲得促進・支援

#### 4-2 スマート（しなやか）戦略 ～「連携・共有」&「自立・持続」の視点

環境への負荷を抑えたキャンパスで、学内外を繋ぐ充実した学修環境の中で、学生や県民が安心してしっかり学び続けることができる「スマート（しなやか）戦略」に取り組む。

(1) 学生支援の充実

- 1) 奨学金制度の充実
- 2) 心と身体の健康の増進支援
- 3) 職業観の醸成と就業支援の充実、起業支援
- 4) 大学生活を通じた、変化への対応力を含む社会人基礎力の養成

(2) ICTを活用した学修環境の充実

- 1) 全学的に統合化された使いやすい情報システムの整備
- 2) 安全性・信頼性の高いネットワーク基盤の充実
- 3) 情報リテラシーの向上支援

(3) 環境への負荷を抑えたキャンパス整備の推進

- 1) 新エネルギーの活用
- 2) 環境に配慮した施設の改修

(4) 大学連携、地域連携の推進

- 1) 大学連携による新たな共同教育プログラムの開発・実施  
～教養教育、専門教育、英語による共同教育、留学生の日本語教育
- 2) 大学連携による世界レベルの研究者の招聘
- 3) 市町との協働研究、企業との共同研究の推進
- 4) 県内の美術館、博物館、図書館との連携などによる、より質の高い学びの場の提供
- 5) 国立大学再編等を契機とする大学再編への積極的取組み

(5) 経営基盤の強化

- 1) 全学的な教学マネジメントとガバナンスの確立
- 2) 到達目標の可視化とPDCAサイクルの的確な運用 ～内部質保証から質向上へ
- 3) 大学のブランドイメージの確立に向けた戦略的広報の推進
- 4) 大学の運営に情熱を持ち、マネジメント力に優れた教職員の確保とSD活動の推進
- 5) 財政基盤の強化